

大気環境学会誌

J Journal of
apan
S Society
ociety
for
A Atmospheric
tmospheric
E Environment
nvironment

2026

Vol. 61

No.3

大 気 環 境 学 会
JAPAN SOCIETY FOR ATMOSPHERIC ENVIRONMENT

目 次

あおぞら

北海道東北支部の活動と現状 齊藤 貢

研究室紹介

新潟県保健環境科学研究所 大気科学科

総説

都市の大気環境と自動車 これまでとこれから—東京都の事例を元に—
 森川 多津子〈令和7年度大気環境学会学術賞(斎藤潔賞)受賞者〉… 49
 遠隔地域モニタリングに基づく広域・越境汚染研究—今後の大気モニタリングの課題と展望—
 弓場 彬江〈令和7年度大気環境学会進歩賞受賞者〉… 60

研究論文(技術調査報告)

横浜市臨海部における大気中ホルムアルデヒドの一次排出および二次生成寄与の算出
 福崎 有希子, 定永 靖宗, 中嶋 吉弘, 佐藤 圭, Ramasamy Sathiyamurthi,
 中山 智喜, 河野 七瀬, 坂本 陽介, 梶井 克純 … 35

入門講座

「大気中マイクロ・ナノプラスチック」の連載にあたって 大河内 博 … A1
 大気中マイクロ・ナノプラスチック—第1講 大気中マイクロ・ナノプラスチックとは何か—
 —新たな大気環境問題— 大河内 博, 王 一澤, 速水 洋 … A2

資料(関東支部講演会講演要旨の抄録)

令和6年度大気環境学会関東支部講演会(2025年5月16日開催)
 大規模森林火災の発生メカニズムとシミュレーション、および燃焼由来物質の排出挙動 奥田 知明 … A11
 過去30年における日本国内の林野火災の発生傾向と水文学的評価 峠 嘉哉, Chenling Sun, Ke Shi … A12
 From Forest Fires to Urban Fires: Development and application of WRF-Urban-Fire
 Varquez Alvin C.G., Yamashita Kohei, Kanda Manabu … A13
 農業残渣物の野焼きに伴う大気汚染物質の排出量評価 中嶋 吉弘 … A14

大気環境学会ニュース

第67回大気環境学会年会のお知らせ(第4報) N27
 Asian Journal of Atmospheric Environment Vol. 20 Article number 3-4 2026 CONTENTS & ABSTRACT N34

支部だより

北海道・東北支部 北海道東北支部総会および研究発表会のお知らせ N36
 関東支部 令和7年度関東支部総会のお知らせ N36
 令和7年度関東支部講演会・交流会のお知らせ N36
 関東支部 科学コミュニケーション部会 研究フォーラム
 光化学オキシダントを科学コミュニケーションの視点で考える N37
 近畿支部 部会講演会のお知らせ N37
 九州支部 大気環境学会九州支部役員会、総会及び第26回研究発表会の開催報告 N38

日本環境化学会大気環境部会・大気環境学会九州支部合

同シンポジウム「越境大気汚染と健康リスク」のお知らせ N38

分科会・研究会だより

モビリティ環境分科会 モビリティ環境分科会講演会のお知らせ N39

委員会だより

編集委員会 研究論文の投稿のお願い N40

「研究室・企業紹介」の原稿募集のお知らせ N40

会員へのお知らせの掲載について N40

J-STAGE への大気環境学会年会講演要旨集の掲載について N40

論文賞選考委員会 論文賞の選考対象について N40

関連学協会だより N41

CONTENTS

[Blue Sky]

Activities and Current Situation in the Hokkaido-Tohoku Branch of Japan Society for Atmospheric Environment Mitsugu Saito

[Reviews]

Urban Air Quality and Motor Vehicles: Past, Present, and Future
—Based on the Tokyo Metropolitan Experience— Tazuko Morikawa ... 49

Regional and Transboundary Air Pollution Research Based on Air Quality Monitoring in Remote Areas:
Future Challenges and Perspective for Air Quality Monitoring Akie Yuba ... 60

[Technical Report]

Quantifying the Contributions of Primary Emissions and Secondary Formation to Atmospheric Formaldehyde
in Yokohama, Japan
..... Yukiko Fukusaki, Yasuhiro Sadanaga, Yoshihiro Nakashima, Kei Sato, Sathiyamurthi Ramasamy,
Tomoki Nakayama, Nanase Kohno, Yosuke Sakamoto, Yoshizumi Kajii ... 35

—あおぞら—

北海道東北支部の活動と現状

大気環境学会北海道東北支部長
岩手大学
齊藤 貢

2023年度から北海道東北支部長を務めております岩手大学の齊藤と申します。今回、『あおぞら』への寄稿依頼がありましたので、この機会に北海道東北支部の活動紹介と支部の現状をお伝えさせていただきます。

北海道東北支部では、道県持ち回りで年1回の支部総会および学術研究発表会を開催しております。私は開始当初からのメンバーではありませんので詳しい経緯はわかりませんが、岩手医科大学の角田先生や北海道大学の太田先生ら、北海道・東北在住の大気環境学会で活発に活動されておった先生を中心に、足下の北海道東北支部に大気環境に携わる学生や地方自治体研究員の方々が自由に格式張らず、かつ経費負担を最小限にとどめて研究発表や交流できる場を設けたいとの思いから始まったと伝え聞いております。その思いを引き継ぎ、現在でも年1回ではありますが、宮城県→福島県→山形県→秋田県→青森県→北海道→岩手県のローテーションで開催してきております。現在3巡目に入っておりますが、最近では開催道県に在住の支部幹事を中心に思考をこらした研究発表会になってきております。

各道県で開催した3巡目(2021年度～)の研究発表会の様子を紹介します。コロナ禍であった2021年度には宮城県仙台市で、支部としては初めての対面とオンラインのハイブリッドによる研究発表会を企画し、口頭発表12件、特別講演2件を無事に開催することができました。2022年度は放射線や環境問題について身近に学習できる福島県環境創造センター(福島県田村郡三春町)を会場にハイブリッド開催され、口頭発表10件、特別講演1件と施設見学が行われました。2023年度は山形県山形市で開催され、口頭発表9件の他、高校生や地元の環境活動団体の研究を含む10件のポスター発表がありました。2024年度は北海道札幌市で開催され、口頭発表14件、特別講演2件の発表がありました。この研究発表会では、支部としては初めての英語での口頭発表もあり、グローバル化を感じる発表会でした。2025年度は青森県弘前市で開催され、口頭発表13件、特別講演1件の発表がありました。この研究発表会では、口頭発表を行った5人の学生の中から学生優秀発表賞(副賞として青森県産

品)を授与する新しい試みも行われました。2026年度は私の在籍する岩手県が開催場所に決定しています。紹介しましたとおり、各道県が思考をこらした企画を実施していることもあり、担当幹事である私としては少々プレッシャーを感じております。

さて、北海道東北支部の活動を紹介しましたが、各道県持ち回りの3巡目の紹介でお気づきになられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか? 秋田県での開催がスキップされ、青森県と北海道の順番が逆転しております。ここで、北海道東北支部の現状についてお伝えいたします。他の支部でも課題となっていることと思いますが、会員数の減少が大きな問題になっております。北海道東北支部の構成は、正会員:43名、法人・賛助会員:11団体(2025年度現在)になります。正会員の内訳は、北海道:19名、青森県:5名、秋田県:1名、岩手県:4名、宮城県:4名、山形県:3名、福島県:4名であり、北海道と東北6県の合計で半々の内訳です。法人・賛助会員は、北海道:2団体、青森県・秋田県:各1団体、岩手県:2団体、宮城県:5団体、山形県・福島県:各0団体であり、ほとんどが地方自治体で民間企業が少ない状態です。そのため、幹事会・総会では、ローテーションどおりの開催ができるかどうか毎年の議題になっております(各道県の幹事の方々には頭が下がる思いです)。これまで、2巡目のときには青森県で、3巡目では秋田県が地元幹事不在のためスキップせざるをえませんでした(2025年度に青森県で開催できたことは大変喜ばしいことでした)。

一人でも多くの学会員を増やしたいところは山々ですが、今後の人口減少率予測の上位を占める東北地方では中々困難な課題です。ただ、これまでの研究発表会を継続するために黙っているわけにもいきませんので、北海道東北支部では、「大気環境」とも関連性のある水や雪氷、生態環境など裾野を広げた話題も研究発表に盛り込みながら進めていきたいと考えております。コロナ禍以降は、対面およびオンラインでのハイブリッドで開催しておりますので、他の支部の方々で関心のある方は是非、北海道東北支部の研究発表会にご参加ください。

研究室紹介

新潟県保健環境科学研究所 大気科学科



新潟県のマスコットキャラクター トッキッキ

● 新潟県保健環境科学研究所について

新潟県保健環境科学研究所は、昭和22年に新潟県衛生試験所として発足し、昭和46年に発足した新潟県公害研究所と昭和60年に統合、新潟県衛生公害研究所となり、平成9年、現在の名称に変更しました。

その後、平成21年に現在の1課6科（総務課、情報調査科、細菌科、ウイルス科、生活衛生科、大気科学科、水質科学科）体制となり、平成31年には、気候変動適応法第13条に基づく「新潟県気候変動適応センター」が設置されました。

当所は、新潟県における保健衛生・環境行政を科学的・技術的に支援する中核機関として、様々な調査研究、試験検査を始め、食中毒や環境汚染事故などの発生時には実態把握や原因究明に向け、迅速な調査・検査を行うとともに、温室効果ガスの排出量推計、気候変動に係る調査研究を進めるなど、県民の安全・安心な暮らしを支える一翼を担っています。

● 大気科学科の主な調査業務

大気科学科では、有害大気汚染物質モニタリング調査、PM2.5成分分析、新幹線・高速道路等の騒音振動に関する調査及び環境計量証明事業所立入業務などを実施しています。また、環境省の委託を受け、国設酸性雨測定所の管理運営及び化学物質環境実態調査（大気モニタリング調査及び分析法開発調査）を実施しています。

当県に特徴的な調査業務としては、トリクロロエチレン大気環境モニタリング調査があります。県内の一部地域において、トリクロロエチレンの大気環境中濃度が全国的にも高い傾向にあるため、環境基準の達成状況を評価するため、令和元年度から有害大気モニタリングに地点を追加して、キャニスターによる減圧採取法での調査を実施しています。

これまで環境基準の超過はありませんが、依然として高い値が検出される月もあることから、令和7年度においてもモニタリングを継続しています。

● 大気科学科における主な調査・研究

(1) 酸性雨に係る調査

昭和62年度から酸性雨に関する調査を実施し、また、平成3年度からは全国環境研協議会による酸性雨全国調査に参加して、他地域との比較を行いながら本県の酸性雨の現状把握を進めています。

(2) 新潟県における環境中のマイクロプラスチック調査手法の基礎的検討

大気中に浮遊する「マイクロプラスチック (MPs)」は人の健康や生態系への影響をはじめ、環境中の動態などが未解明となっています。

これまでの調査で、ローボリウムエアサンプラーを用いた採取方法と、顕微ラマン分光装置を用いた測定手法を検討しました。

県内2カ所の測定地点で調査を行った結果、1カ所からMPs（ポリエチレン）が検出され、ラマンスペクトルによる粒径20 μm未満のMPsに対する定性分析の有効性が確認されました。

この分析手法を用い、大気環境中の動態及び粒子状物質から発生源を推定することを目的にアジア大気汚染研究センター（ACAP）と共同研究を進めています¹⁾。

1) 佐々木博行ほか、顕微ラマン分光法による大気中マイクロプラスチックの試験的調査、環境化学, **34**, 61-70 (2024)



新潟県保健環境科学研究所



トリクロロエチレンのサンプリング



酸性雨サンプリング（新潟市曾和）



大気中MPsの採取

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第67回大気環境学会年会のお知らせ (第4報)

第67回大気環境学会年会および併設の環境機器展を下記のとおり開催いたします。多数の会員のご参加をお待ちしております。

会期：2026年9月16日(水)～18日(金)
 会場：東洋大学川越キャンパス(埼玉県川越市鯨井2100)
 年会ウェブサイト：<https://sites.google.com/view/jsac67toyo-cess/>

【注意点】

- ・ 前回年会と同様、発表申込み・要旨提出にはGoogle Formsを、参加登録・支払いにはPeatixを利用します。詳細は年会ウェブサイトですぐお知らせします。
- ・ 支払方法の関係で、年会当日の会場での現金支払いは今年も受け付けません。
- ・ 早期払込(期限：8月7日)をご利用いただきますと参加費に割引料金が適用されます。
- ・ **参加費にはプログラム集(冊子体)および講演要旨集(PDF)代が含まれます。** 事前参加登録者には年会ウェブサイトからPDFファイルをダウンロードできるようにします。
- ・ 法人会員Bおよび賛助会員には年会後に要旨集PDFデータのパスワードを送付します。
- ・ 年会開催前に発行される学会誌にプログラムを掲載します。
- ・ 参加申込みには会員番号が必要です。事前にご確認をお願いします。
- ・ 前回に続き今回も「保育支援」を実施いたします。年会開催時の各種保育サービス利用の補助、および現地保育(年会会場に保育室を設置)を予定しています。詳細は年会ウェブサイトに掲載予定です。
- ・ 会場には駐車スペースがございませんので、公共交通機関でのご参加をお願いいたします。会場へのアクセスにつきましては、年会ウェブサイトおよび続報をご確認ください。
- ・ 対面開催を予定しておりますが、天災地変、その他の不可抗力の事由により、年会の開催中止、延期、あるいは開催方法の変更もあり得ます。これらの場合には年会ウェブサイト等を通じて詳細をご連絡いたします。

1. 研究発表申込および年会参加申込の流れ【詳細は年会ウェブサイトおよび年会のお知らせ第4報をご覧ください】

流れ	期限など
1. 研究発表の申込：年会ウェブサイト「一般研究発表」のページより指示に従って申込む。	期限：5月29日(金) ※プログラム編成の都合上、期限の延長はいたしませんのでご注意ください。
2. 「一般研究発表」のページより指示に従って講演要旨原稿を提出。	期限：6月30日(火)
3. 年会ウェブサイトから「参加登録」ページへアクセスしてPeatixより参加登録し、参加費、発表申込金等を払い込む。	早期払込(割引) 期限：8月7日(金) 8月8日(土)以降は通常料金となります。
4. 当日 【事前登録者】受付でプログラム集等を受け取る。 【当日登録者】受付でPeatixより当日登録を行い、プログラム集等を受け取る。当日の現金の授受は行いません。	

2. プログラム概要(予定)

日程	午前	午後	夕方
9月16日(水)	口頭発表	ポスター発表、特別集会	分科会
9月17日(木)	口頭発表、ポスター発表、特別集会	総会、受賞記念講演、シンポジウム	意見交換会
9月18日(金)	口頭発表、特別集会	口頭発表、特別集会、公開シンポジウム	

期間中は全日、環境機器展を開催します。様々な最新機器が展示されますので情報収集などの機会としてご参加ください。
関連の技術セミナー(弁当付き、定員あり)も予定しています。

3. 年会参加登録

3.1 年会参加登録方法

年会ウェブサイトから、各種フォームを利用しての参加登録となります。詳細は年会ウェブサイト「参加登録」をご参照ください。

3.2 年会参加費および早期払込割引(期限8月7日(金))

できるだけ**早期払込(期限: 8月7日)**をお願いします。期限以降は通常料金となりますのでご注意ください。また、参加費には**プログラム集(冊子体)および講演要旨集(PDF)代が含まれています**。年会ウェブサイトの案内に従って、クレジットカード等でお支払いください。払込み後の返金はできません。

参加区分	参加費		意見交換会費 [#]	
	早期払込	8月8日以降	早期払込	8月8日以降
正会員	7,500円	10,000円	10,000円	12,000円
賛助会員	7,500円/人	10,000円/人	10,000円	12,000円
法人会員B	7,500円/人	10,000円/人	10,000円	12,000円
学生会員	3,500円	5,000円	5,000円	6,000円
法人会員A	10,000円	12,000円	10,000円	12,000円
名誉会員	招待		10,000円	12,000円
非会員	10,000円	12,000円	10,000円	12,000円
ジュニア聴講生*	—	—	5,000円	6,000円

#意見交換会は定員に達した段階で締め切らせていただきます。

・定員に達していない場合、当日の参加も可能です。ただし、会場受付にてPeatixを利用したクレジットカード払いのみ受け付けます。現金は受け付けません。

・意見交換会の会場: ラ・ボア・ラクテ(JR・東武東上線川越駅西口徒歩3分)

*ジュニア聴講生は高校生と大学の学部学生が聴講のみで参加可能な参加区分です。学年は問いません。身近な学生にも幅広く呼びかけていただくことを期待します。ただし、研究発表する場合には学生会員として入会し、学生会員の参加費をお支払いください。

3.3 講演要旨集(PDFファイル)について

参加登録者は、年会ウェブサイトより事前に講演要旨集のPDFファイルを閲覧・ダウンロードできるようにします。

3.4 プログラム集について

プログラム集(冊子体)は当日配布とし、事前送付はいたしません。講演要旨集(冊子体)は事前にお申込みいただいた購入希望者のみに配付します。講演要旨集(冊子体)の購入をご希望の場合は、3.5をご参照ください。

3.5 講演要旨集の販売

講演要旨集(冊子体)は1冊5,000円(送料込み)で承ります。年会ウェブサイトの案内に従い、Peatixを利用したクレジットカード払いにてお支払いください。発送申込み期限ま

でにお申込みされた場合は、冊子体を発送いたします。発送申込み期限は8月中旬、発送は9月上旬以降を予定しておりますが、詳しくは年会ウェブサイトに掲載いたします。発送申込み期限後、または会場でお申込みされた場合は、会場でお渡しになります。ただし、当日会場受付におけるお申込みであってもPeatixを利用したクレジットカード払いのみとなり、現金によるお支払いは受け付けません。

講演要旨集(冊子体)にはPDFデータは付属しておりません。また、年会に参加されずにPDF版の講演要旨集の購入を希望される方も、年会ウェブサイトの案内に従ってPeatixよりお申込み・お支払いください。

3.6 個人情報の取り扱いについて

参加登録者から取得した個人情報は、年会の運営に係わる適正な利用範囲(事務局からの問い合わせ、補助金申請のための名簿作成等)に限り使用し、その他の用途でご本人の同意なく第三者に提供することはありません。

4. 一般研究発表の申込み

4.1 発表形式

発表形式は口頭発表とポスター発表の2種類があります。なお、口頭発表の数およびポスター数に制約があります。そのため、発表形式の変更をお願いさせていただくことなど、お申込みいただいた内容が全てご要望通りにならない可能性があります。

【学生・若手研究者優秀発表賞について】学生・若手研究者の希望者を対象に、優れた口頭発表・ポスター発表を「学生・若手研究者優秀発表賞」として表彰する予定です。なお、学生・若手研究者優秀発表賞のエントリー資格は、学生または博士号を取得していない若手研究者で、正会員・学生会員・法人会員および賛助会員所属の方のみとなります(申込み時には入会申請中でも可)。また、学生・若手研究者優秀発表賞への審査希望は、1名につき口頭発表もしくはポスター発表のどちらか1件のみとし、講演要旨提出時にアピールポイントなどを入力していただく予定です。詳細は、年会ウェブサイトおよび学会誌の続報にて随時お知らせします。

4.2 申込み方法

年会ウェブサイトからの申込みとします。申込みと同時に、発表申込金(演題1題につき3,000円)を年会参加費とともにPeatixを利用したクレジットカード払いにてお支払いください。なお、特別集会および分科会の発表申込金は不要です。

申込みの際に入力していただく項目および発表部門は、「6. 研究発表の申込み時の入力項目および発表部門」を参照してください。

4.3 申込み時の注意事項

- 筆頭発表者および演者は会員に限ります(共同発表

者、および特別集会や分科会の演者は非会員でも構いません。未入会の方は、大気環境学会ウェブサイト (<http://www.jsae-net.org>) で入会手続きを行ってから申し込んでください。

- b. 同一演者による一般研究発表は、3題以内とします。複数の発表がある場合には、希望する発表順序を必ず入力してください。なお、特別集会、分科会などはこの数に含まれません。
- c. プログラム編成の都合により、発表部門や発表形式、発表件数を変更させていただくことがあります。特に口頭発表については枠に制約があるため、発表件数を制限させていただくこと、口頭発表でエントリーした方にポスター発表への変更をお願いさせていただくことなど、申込みいただいた内容が全てご要望通りにならない可能性があります。
- d. 演題名は修正していただくことがあります。
- e. 発表申込みは、共同発表者全員の了承を必ず得てから行ってください。なお、発表内容に問題があると判断された場合には申込みを受理しません。

4.4 発表申込み期限および発表申込金

- a. 発表申込み期限：2026年5月29日（金）
- b. プログラム編成の都合上、申込み期限は延長いたしません。
- c. 年会への参加登録後に発表申込みをおこない、年会参加費とともに発表申込金（演題1題につき3,000円）をお支払いください。払込み後の返金はできません。
- d. 発表申込金と参加費の支払いは同じタイミングです。参加費支払いの前に発表申込金を支払う必要はありません。

4.5 講演要旨原稿の提出

提出期限：2026年6月30日（火）

提出方法：年会ウェブサイト「一般研究発表の申込み」のページより指示に従ってご提出ください。

- a. 一般研究発表の要旨は、年会ウェブサイトでのみ原稿を受け付けます。
- b. 原稿の提出は期限厳守をお願いします。
- c. 原稿作成の詳細については後述の「講演要旨原稿作成の手引き」をご覧ください。
- d. 発表申込み時の内容（タイトル・発表者等）と要旨の内容が異なる場合は要旨の内容を優先しますが、プログラム集等への更新内容の反映は保証いたしません。各自にて必ず内容をご確認ください。
- e. 大気環境学会年会講演要旨集に掲載された講演要旨の著作権は、(公社)大気環境学会著作権ポリシーに基づき、公益社団法人大気環境学会に属します。また、すべての要旨がJ-STAGEに掲載される予定です。これらを了承の上ご提出ください。

4.6 発表に関する注意事項

- a. 口頭発表では、WindowsのMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーションを予定しています。ソフトウェアのバージョンやポスターの掲示サイズなど、発表方法の詳細は、年会ウェブサイトおよび続報でお知らせします。
- b. 会場での発表資料等の配付は、各人の責任で行ってください。

5. 特別集会・分科会企画の公募

特別集会と分科会は一つのカテゴリーとして、企画を公募します。開催を希望される場合は、年会ウェブサイトから入手できる様式に従って、下記の「5.1 特別集会・分科会概要」に示す内容をメールで以下のアドレスまでお送りください。会場数に限りがあるため、複数の分科会合同での開催もご検討ください。

申込み期限：2026年5月8日（金）

申込み先：第67回大気環境学会年会実行委員会

Email: jsae67toyo.cess@gmail.com

5.1 特別集会・分科会概要

- a. タイトル（特別集会、分科会の別を入力のこと）
分科会のテーマに関係が深い内容は、特別集会ではなく分科会での申請をお願いいたします。
- b. 趣旨・内容（200字程度）
- c. 企画責任者の氏名、所属、電話番号、メールアドレス
- d. 世話人と座長の氏名、所属
- e. 講演者の氏名、所属、メールアドレス、講演タイトル
- f. 希望日時と予想されるおおよその参加者数
- g. 講演要旨は著作権が大気環境学会に属すること、また、J-STAGEにて後日公開されることを企画責任者および講演者が了承しているか

5.2 企画の採否と内容の決定、演題・要旨の提出

年会実行委員会で日程・プログラム編成上の都合を勘案して企画の採否を決定し、企画責任者へ通知します。特別集会・分科会の開催日や会場（サイズ）などについて、実行委員会から調整のご相談をさせていただく可能性があることを予めご了承ください。講演要旨原稿は、企画責任者が取りまとめ、実行委員会宛てにお送りください。なお、特別集会・分科会の演題については、発表申込金は不要です。

6. 研究発表の申込み時の入力項目および発表部門

6.1 入力項目

一般研究発表を申込み際に入力いただく項目は以下を予定しています。なお、今後項目が変更される可能性がありますので、詳しくは年会ウェブサイトおよび続報をご確認ください。

【筆頭発表者情報】

- a. 氏名
- b. 会員番号
- c. 会員種別：正会員、学生会員、法人会員B、賛助会員、名誉会員
- d. 所属機関名
- e. 電子メールアドレス
- f. 電話番号

【発表者情報】

- a. 所属機関名
- b. 共同発表者の氏名
- c. 講演要旨掲載順

【発表形式・部門】

- a. 希望発表形式：口頭発表またはポスター発表を選択
- b. 審査希望の有無：学生・若手研究者優秀発表賞の審査希望の有無を入力してください。
- c. 希望発表分類：発表部門・分類一覧の中から、発表を希望する部門・分類を第1希望は必ず、必要に応じて第3希望まで選択してください。
- d. 関連発表順序：複数の関連した内容の発表を続けて行いたい場合は、備考欄に、関連発表の発表者氏名と演題名を入力し、ご自分の発表との順序を入力してください。

【演題名・講演要旨】

- a. 演題名
- b. 発表分類のための要旨：研究概要を100～200字程度で記入（詳細な結果の入力は不要です。）
- c. 発表分類のためのキーワード（3～5個）
- d. 講演要旨（研究発表の申込み時は不要ですが、6月30日までに提出してください。）

6.2 発表部門・分類一覧

1 大気汚染物質	1-1 光化学オキシダント 1-2 VOC 1-3 粒子状物質 1-4 酸性雨 1-5 放射性物質 1-6 有害化学物質 1-7 その他
2 環境動態	2-1 室内環境 2-2 沿道環境 2-3 都市・地域 2-4 東アジア 2-5 地球環境

3 影響	3-1 植物影響 3-2 材料・文化財影響 3-3 臭気 3-4 動物影響・毒性評価 3-5 疫学・リスク評価
4 発生源	4-1 移動発生源 4-2 固定発生源 4-3 排出インベントリ 4-4 排出規制・抑制技術・コベネフィット
5 輸送・反応・沈着	5-1 輸送・拡散 5-2 生成・反応 5-3 沈着
6 手法開発	6-1 分析・測定・観測手法 6-2 計測機器・ローコストセンサー 6-3 数値解析・モデリング 6-4 人工知能(AI)・機械学習
7 気候変動	7-1 温室効果ガス 7-2 影響評価・予測 7-3 緩和策・適応策
8 その他	8-1 環境社会科学・環境学習 8-2 その他

7. 年会における保育支援のご案内

第67回大気環境学会年会では保育支援を実施します。保育支援として、現地保育（東洋大会場内保育室の設置）と保育支援（外部施設等）を予定しております。保育支援の利用方法は、年会ウェブサイトの「保育支援のご案内」にある2026年度ガイドラインを参照してください。今後の保育に関するお知らせは同ウェブサイト、メールニュースにて発信します。

【今年度の保育支援の内容】

1. 会場内保育室の利用の補助支援（施設利用人数の制限および保育士の配置等の事情がありますが、東洋大会場内に保育室を設置いたします。お早めに下記問い合わせ先までご相談ください）。
2. 利用者が上記の1. 以外の既存保育施設を利用した場合の、利用料に対する補助支援（利用保育施設の場所が学会会場近隣でない場合や、学会参加のための延長保育（早朝および夜間）、病児・病後児保育についても支援対象とする。ただし、通常保育は適用外とする）。
3. 利用者が年会参加のためにベビーシッターを利用した場合の利用料に対する補助支援。
4. その他、年会実行委員会が認めた方法による支援。

上記、1.をご希望の場合は2026年7月24日（金）まで、その他の支援をご希望の方は2026年8月28日（金）までに、年会ウェブサイトの後日公開される「大気環境学会年会保育支援利用登録フォーム」よりご申請ください。なお、締切後であっても、状況により対応可能な場合がありますので、その

際にご遠慮なくご相談ください。いずれの支援の場合にも、お子様の体調不良などで急なキャンセルがあり得ることは承知していますので、ご安心ください。また、発表時間については早朝や夕方を避けるなどの配慮が可能です。希望される場合は、発表申込の際、「【発表形式・部門】-d. 関連発表順序」の欄に、その旨をご記入ください。なお、予算には上限がありますので、希望されるすべての支援をお約束できるものではありません。

<お問い合わせ>

第67回大気環境学会年会実行委員会

jsae67toyo.cess@gmail.com

(件名に [JSAE67 保育支援] とご記入ください)

8. お問い合わせ先など

年会に関する情報は、逐次「大気環境学会誌」の大気環境学会ニュース欄でお知らせするとともに、最新情報は随時年会ウェブサイトに掲載します。不明な点については下記までお問い合わせください。

【年会ウェブサイトアドレス】

<https://sites.google.com/view/jsae67toyo-cess/>

【第67回大気環境学会年会に関するお問い合わせ先】

第67回大気環境学会年会実行委員会

Email: jsae67toyo.cess@gmail.com

講演要旨原稿作成の手引き

1. はじめに

年会ウェブサイト内の『一般研究発表申込み』にある原稿作成用テンプレート（Word形式）をダウンロードし、要旨を記載しPDFファイルを作成してください。不都合がある場合は、お問い合わせ先（jsae67toyo.cess@gmail.com）までご連絡ください。

2. 本文作成方法

2.1 本文作成

- ①年会ウェブサイトより『一般研究発表申込み／講演要旨原稿作成の手引き』へアクセスしてください。
- ②「原稿作成用テンプレート」をクリックすると、テンプレートファイルがダウンロードできます。
- ③テンプレートをダウンロードできない場合は、下記を参考に作成してください。
 - ・上に25 mm、下に20 mm、左右に20 mmずつ余白をとり、この範囲内に原稿を横書きで書いてください。
 - ・所定の位置に講演題目、名前、所属を記入してください。発表者の所属が異なる場合には、名前と所属の右肩に上付きで1) や2) の印をつけて、対応がわかるようにしてください。
 - ・演者には名前の前に○印をつけてください。
 - ・フォントは講演題目はゴシック12ポイント、講演

題目以外は明朝10ポイントにしてください。

- ④ページの上限は、一般研究発表1ページ、特別集会4ページ、分科会2ページとします。特別集会、分科会の詳細については各企画責任者に問い合わせてください。
- ⑤原稿をPDFファイルに変換してください。
 - ・Adobe Acrobat等でPDFファイルに変換してください。
 - ・PDF変換の際には、フォントの埋め込みを行ってください。
 - ・必ずPDFファイルを出力して、文字化け、画像の乱れ等がないかご自身で確かめてください。事務局では内容のチェックをしません。画像の乱れや文字化けなどがそのまま講演要旨集に掲載されますのでご注意ください。

2.2 原稿提出・修正

要旨のアップロード方法は、後日年会ウェブサイトおよび続報にてお知らせいたします。なお、発表申込み期限である5月29日以降は、プログラム編成上、要旨原稿の入れ替え以外の演題名や発表者名等の変更は原則として受け付けませんのでご注意ください。詳しくは年会ウェブサイト (<https://sites.google.com/view/jsae67toyo-cess/>) をご確認ください。

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第67回大気環境学会年会「環境機器展」のご案内

公益社団法人大気環境学会では、2026年9月16日(水)から9月18日(金)の3日間、東洋大学川越キャンパスにて第67回大気環境学会年会を開催致します。例年通り、年会に併設して『環境機器展』を開催します。毎年400名を超える大気環境分野の研究者・技術者・行政関係者などが集う本年会は、貴重な情報交換の場ともなっております。年会と併行しまして、貴社製品の展示や技術、サービス等をご紹介いただく環境機器展ならびに技術セミナーを同会場にて行う予定です。

つきましては、貴社の製品・技術・サービスを年会参加者に広くご紹介いただくことはもとより、参加者との情報交換等のために、この機会に奮ってご出展くださいますようご案内申し上げます。

あわせて、プログラム集(冊子体)と講演要旨集(PDF)への広告や、年会ウェブサイトへのバナー広告の掲載も予定しておりますので、皆様方のご支援、ご協力、何卒、宜しく願い申し上げます。出展特典の一例を以下に紹介いたします。

ご出展に係る料金や特典の概要を下の一覧表に記載しておりますが、詳細につきましては年会ウェブサイトの「[環境機器展・技術セミナーおよび広告掲載のご案内](#)」に掲載の募集要項をご確認ください。お申込みの期限は5月29日(金)です。同サイトにある[申込先リンク](#)にて必要事項を入力してお申し込みください。なお、天災地変、その他の不可抗力の事由により、年会の開催中止、延期、あるいは開催方法の変更もあり得ます。これらの場合には改めて詳細をご連絡いたします。

表 環境機器展等募集項目とその料金一覧表

	募集項目	料金 ^{※1}	特典・備考
①	機器展示a	170,000円 (1小間につき ^{※3})	・年会参加証(2名分)、プログラム集(2冊)、講演要旨集(PDF)を進呈 ・「④技術セミナーでの発表」、「⑥バナー広告の掲載」の割引 ・学会員の研究ニーズ情報の提供(予定) ・意見交換会参加証(1名分) ^{※2}
②	機器展示b	160,000円 (1小間につき ^{※3})	・年会参加証(2名分)、プログラム集(2冊)、講演要旨集(PDF)を進呈 ・「④技術セミナーでの発表」、「⑥バナー広告の掲載」の割引 ・学会員の研究ニーズ情報の提供(予定)
③	カタログ展示	50,000円 (1小間につき)	・担当者の常駐はできません。 (カタログのみ郵送で実行委員会に設置を依頼する場合は別途10,000円で承ります)
④	技術セミナー発表 (昼休み時間に実施)	100,000円 (25分)	・年会参加証(2名分)、プログラム集(2冊)、講演要旨集(PDF)を進呈 ・講演要旨集(PDF)に発表要旨を掲載 ・「機器展示a, b」のお申込み小間数に応じ ：1小間で30,000円割引 ：2小間で80,000円割引)
⑤	プログラム集・講演 要旨集広告掲載	50,000円(1頁) 30,000円(1/2頁)	・プログラム集(冊子体A4)はモノクロ印刷 講演要旨集(PDF)はカラー掲載可能
⑥	年会ウェブサイトバ ナー広告掲載	30,000円 (バナー1枚につき)	・「機器展示a, b」のお申込み小間数に応じて割引 ：1小間で10,000円割引、2小間で1枚無料

※1 表内の価格はすべて税込(10%)の価格です。

※2 意見交換会に2名以上参加を希望される場合はお知らせください。1名につき10,000円で追加を承ります。

※3 展示台のサイズは原則、幅1800mm×奥行450mmです。奥行900mmで希望される場合はお知らせください。小間寸法は変更できません。

【問合せ先】

第67回大気環境学会年会運営事務局(プライムインターナショナル内)

担当: 蓮池、島津

Email: jsae67_sponsor@pco-prime.com

(件名には【JSAE67環境機器展】とお書きください)

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

Asian Journal of Atmospheric Environment

Vol. 20 Article number 3-4 2026

CONTENTS & ABSTRACT

Vol. 20, Article number: 3

Research Article

Regional air quality modeling of ethylene oxide in the Greater Tokyo Area of JapanYuuki Sakai, Hiroo Hata*, Kazuya Inoue, Kenichi Tonokura* <https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-026-00082-7>**ABSTRACT**

Ethylene oxide (EtO) is a volatile organic compound that poses both acute and chronic risks to human health, prompting governments worldwide to implement measures aimed at reducing ambient EtO concentrations. In this study, regional chemical transport model calculations were performed using the EtO emission inventory provided by the Ministry of Economy, Trade and Industry and the Ministry of the Environment, Japan. The target area and period were the Greater Tokyo Area (GTA) in 2017. The results indicated that the modeled atmospheric EtO concentrations were lower

than the observed concentration at all monitoring sites in the GTA, with the discrepancy reaching up to one order of magnitude. Long-range transport of EtO from the Asian continent to Japan was not identified as the primary cause of this discrepancy. Instead, the significant discrepancy might be attributed to global background concentrations of EtO, resulting from its long tropospheric lifetime. To improve the accuracy of atmospheric EtO assessments using chemical transport models, it is essential to account for global emissions.

【和訳情報】

化学輸送モデルを用いた関東におけるエチレンオキシドの大気中濃度の試算阪井 悠樹^{1,2}、秦 寛夫^{1,2*}、井上 和也²、戸野倉 賢一^{1*} (¹東京大学、²産業技術総合研究所)

エチレンオキシド (EtO) は化管法の第一種指定化学物質の一種であり、近年、世界中の環境行政機関が環境排出実態の把握や排出規制対策の検討と規制の強化に乗り出している。本研究では、環境省と経済産業省により提供されているEtOのPRTR届出・届出外排出量推計データを入力とし、化学輸送モデル (CTM) を用いて、関東におけるEtOの大気中濃度の再現性や気象場との関係とアジア地域からの越境輸送の影響について検討した。PRTRに基づくEtOの国内排出量を入

力とした場合のCTMによるEtOの大気中濃度の計算値は、観測値の10分の1程度であった。さらに、アジア地域からの越境輸送を考慮してもCTMは観測値を再現できなかった。EtOの大気寿命は数ヶ月と報告されていることから、CTMによるEtOの大気中濃度が観測値よりも低かった理由は、全球規模のバックグラウンドに起因することが示唆された。EtOの大気中濃度の低減にあたっては、国内の排出規制に留まらず、世界規模での対策が重要である。

Vol. 20, Article number: 4

Research Article

Mobile high-resolution BTEX monitoring and seasonal cumulative health risks from BTEX and PM_{2.5}-metals in a petrochemical complex

Shin-Young Park, Joon-sig Jung, Dong keun Lee, Jung-min Park, Jong-hee Jang, Cheol-Min Lee*

..... <https://link.springer.com/article/10.1007/s44273-026-00081-8>**ABSTRACT**

This study evaluated multi-pollutant exposure and health risks of benzene, toluene, ethylbenzene and xylene (BTEX) and PM_{2.5}-bound heavy metals in the Ulsan Mipo National Industrial Complex, one of Korea's largest petrochemical zones. Real-time BTEX concentrations were measured using a Me-DOAS system, while PM_{2.5} chemical components were simultaneously analyzed to assess both acute and chronic exposures. Ethylbenzene ($31.28 \pm 29.39 \mu\text{g}/\text{m}^3$) and m-xylene ($35.39 \pm 37.21 \mu\text{g}/\text{m}^3$) were dominant among BTEX, showing

concentrations 5–10 times higher than those reported in other industrial regions. Diurnal and seasonal variations were significant, with BTEX peaking in winter and nighttime, whereas PM_{2.5} and metallic constituents (Mn, Co, Cd, V) peaked in spring. Probabilistic exposure assessment revealed that HQ values for all pollutants were generally below 1.0, indicating negligible non-cancer risks. However, short-term evening and nighttime peaks led to higher HQ for benzene and p-xylene, occasionally approaching the threshold. Time-resolved cancer risk analysis showed nighttime benzene

exposure dominated total carcinogenic risk (median ECR: $3.4E-07$ – $5.5E-07$; exceedance $\leq 8.3\%$). These results highlight the importance of temporal variability in exposure

assessment and support the use of high-resolution monitoring for time-sensitive health risk management in industrial environments.

支部だより

各支部のホームページもご覧ください。
学会ホームページ (<https://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

北海道・東北

大気環境学会北海道東北支部では、研究発表会を含む以下の総会を予定しています。研究発表会は学会員でない方や他支部の学会員も参加可能です。申し込みの案内は9月中を予定しています。詳しくは以下の北海道東北支部のHPにてご案内します。

<https://sites.google.com/site/jsaehokkaidotohoku/>

北海道東北支部総会および研究発表会のお知らせ

日 時：2026年10月30日（金）10時～17時（予定）
会 場：キオクシア アイーナ（いわて県民情報交流センター）
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

関東

令和7年度関東支部総会のお知らせ

日 時：令和8年5月22日（金）12:30～13:00
会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎2F大会議室およびオンラインのハイブリッド開催
〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

議 事：

- ・令和7年度支部・部会活動報告
- ・令和7年度中間会計報告
- ・令和8年度予算案
- ・令和8年度活動計画案
- ・その他

申込方法：関東支部正会員の皆様は、電子メールにて配信する総会案内にある申込フォームから出欠および委任のご回答をお願いします。アクセスできない方は、問い合わせ先までご連絡ください。

*対面参加は、会場の定員（50名）までの先着順とさせていただきます。オンライン参加の方には、当日までに接続先情報をお伝えします。総会に引き続き、支部講演会・交流会を開催します。

申込締切：5月18日（月）

問い合わせ：関東支部事務局 米倉、城
〒347-0115 埼玉県加須市上種足914
埼玉県環境科学国際センター内
E-mail: jsae.kanto@gmail.com

令和7年度関東支部講演会・交流会のお知らせ

【講演会】

日 時：令和8年5月22日（金）13:10～16:30
会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎2F大会議室お

よびオンラインのハイブリッド開催

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

テーマ：「光化学オキシダントの現在地—環境基準、観測、そしてこれから—」

プログラム：

13:10～13:15 開会挨拶、趣旨説明 奥田関東支部長

13:15～14:10 光化学オキシダントの大気環境基準の見直し等について

環境省 水・大気環境局 環境管理課 課長補佐 笹原 圭 様
14:15～14:55 常時監視データから見る光化学オキシダント濃度の経年推移と現状

群馬県衛生環境研究所 主任研究員・大気環境係長 熊谷 貴美代 様

（14:55～15:15 休憩）

15:15～15:45 経緯と現状をふまえた光化学オキシダント問題のこれから

話題提供：複数の時間スケールにおける日本国内の地表オゾン濃度の発生源感度解析

国立環境研究所 地域環境保全領域 主幹研究員 茶谷 聡 様

15:50～16:30 パネルディスカッション

モデレーター：茶谷 様

パネリスト：笹原 様、熊谷 様

参加費：無料（ただしPDF資料代1,000円）

*対面参加は、会場の定員（50名）までの先着順とさせていただきます。オンライン参加の方には、当日までに接続先情報をお伝えします。

【交流会】

日 時：令和8年5月22日（金）17:00～19:00

会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎1Fファカルティラウンジ（立食形式）

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

参加費：6,000円（現地にて集金）

申込方法：下記URLからお申込みください。アクセスできない方は、問い合わせ先までご連絡ください。なお、講演会・交流会は関東支部以外の方もご参加いただけます。

<申込先>

https://app.payvent.net/embedded_forms/show/699d37f47b74f5f9da0550ce



申込締切：5月14日（木）

問い合わせ：関東支部事務局 米倉、城
 〒347-0115 埼玉県加須市上種足914
 埼玉県環境科学国際センター内
 E-mail: jsae.kanto@gmail.com

関東支部 科学コミュニケーション部会 研究フォーラム 光化学オキシダントを科学コミュニケーションの視点 で考える

大気環境に関する大きな動きとして、今年光化学オキシダントの環境基準が改定され、4月から適用が始まりました。大気環境の調査・研究や行政に携わる者にとっては大きな出来事ですが、市民や事業者など社会にとってはどうでしょうか。社会にとって光化学オキシダントと言えば「光化学スモッグ注意報」として接点がありますが、五感で認識しづらい光化学スモッグの原因や実態などを市民が理解するには難しさが伴いますし、対策を行う事業者はその効果を実感しづらくもあります。また、社会にたびたび注目される「環境基準」の意味合いをわかりやすく伝え、正しい理解を広めることも容易ではありません。そこで、光化学オキシダントの環境基準の改定を契機に、光化学スモッグ注意報や環境基準など光化学オキシダントにまつわる社会とのコミュニケーションに関する話題を提供していただき、さまざまな立場からの視点を交えながら社会への発信や働きかけなどについて見つめ直し、議論する場を企画しました。今後に生かしていくきっかけとなれば幸いです。ご関心のある方はぜひご参加ください。

日 時：2026年6月9日(火) 14:00～16:15

場 所：オンライン (Zoom)

対 象：大気環境学会会員 (関東支部所属以外の会員も歓迎、学生会員・法人会員B・賛助会員・名誉会員も含まれます)、大気環境の調査・研究や行政に携わっている方や科学コミュニケーションに関心のある方 (非会員歓迎)

プログラム：

- ・趣旨説明
- ・話題提供

「光化学オキシダントのわかりにくさと問題の難しさを改めて考える」

埼玉県環境科学国際センター 長谷川 就一

「神奈川県における光化学オキシダント低減に向けた取組」
 神奈川県環境農政局 清野 浩史

- ・ディスカッション

参加申込：下記URLに必要な事項を記入して6月1日(月)までにお申し込みください。(参加費無料、定員100名)

<https://forms.gle/X9P7cC8GLfC8ZQGF7>

(関東支部のホームページにもURLを掲載しています)

開催日前日にオンラインミーティングのID・パスワードを電子メールでお知らせします。

問い合わせ先：

科学コミュニケーション部会長 長谷川 就一 (埼玉県環境科学国際センター) E-mail: jsae.kanto.sc@gmail.com

近畿

部会講演会のお知らせ

テーマ：自動車に起因する大気汚染の新たな課題—排出ガス・非排気粒子・健康影響—

日 時：令和8年5月25日(月) 14:00～17:00

会 場：遠隔・対面のハイブリッド方式

[遠隔] ZOOM (接続方法は参加申込者に連絡)

[対面] 大阪公立大学I-siteなんば カンファレンス
 ルームC1 (2階)

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号南
 海なんば第1ビル TEL: 06-7656-0441 (代表)

<https://www.omu.ac.jp/isite/>

プログラム：

- (1) 柴田 慶子 (いすゞ自動車)
 自動車排出ガスの大気影響～自工会-JARIの研究成果～(仮)
- (2) 萩野 浩之 (日本自動車研究所)
 自動車走行に伴い排出される非排気由来の粒子状物質と大気環境への影響—ブレーキ摩耗粒子とタイヤ摩耗粒子の話題—
- (3) 茅場 聡子 (国立環境研究所)
 将来的なエネルギーと自動車の変遷が呼吸器系酸化ストレスを誘導する大気汚染物質濃度に及ぼす影響 (仮)

参加申込：

会場定員は40名で、申込先着順とします。5月21日(木)までに、下記のURLから申し込みをお願いします。情報交換会を有志にて開催予定です。

参加申込フォーム：<https://forms.gle/iWaRTRuC4wrcvPJJa6>

本講演会に関する連絡先：

工藤 慎治 (滋賀県立大学：エアロゾル部会)

E-mail: kudo.s@ses.usp.ac.jp

道岡 武信 (近畿大学：気象拡散部会)

E-mail: michioka@mech.kindai.ac.jp

河野 七瀬 (近畿大学：反応と測定部会)

E-mail: kohno@chem.kindai.ac.jp

主催 大気環境学会近畿支部 エアロゾル部会・気象拡散部会・反応と測定部会

共催 大阪公立大学、大気環境学会 都市大気エアロゾル分科会、酸性雨分科会

九州

大気環境学会九州支部役員会、総会及び
第26回研究発表会の開催報告

日時：2026年3月6日(金) 12:00~17:00

会場：くまもと県民交流館パレア 会議室1

九州支部では、標記の日時で支部役員会、支部総会及び研究発表会を開催しました。支部役員会、支部総会では議題「令和6年度事業実施報告及び収支決算報告について」及び「令和7年度事業計画及び予算について」に対し、過半数以上の承認を頂き、議決されました。また、張支部長から第68回大気環境学会年会の熊本開催について説明がありました。

研究発表会は室内環境学会九州支部と合同で開催しました。特別講演として鶴野伊津志先生(九州大学名誉教授)に御講演いただき、その後、大気環境部門から6題、室内環境部門からは2題の計8題の一般発表があり、活発な質疑が交わされました。学生・若手研究者奨励賞は琉球大学の宇座恩様が受賞されました。当日は34名の参加を頂きました。発表及び参加された皆様に感謝申し上げます。

日本環境化学会大気環境部会・大気環境学会九州支部合同シンポジウム「越境大気汚染と健康リスク」のお知らせ

日本環境化学会大気環境部会・大気環境学会九州支部は、2026年6月23日(火)~26日(金)に出島メッセ長崎(長崎県長崎市)において開催される第5回環境化学物質合同大会(第34回環境化学討論会・第30回日本環境毒性学会研究発表会)において、合同シンポジウム「越境大気汚染と健康リスク」を特別企画として開催いたします。

趣旨:

近年、国内の大気環境は改善が進んでおりますが、その一方で、大陸から輸送されてくる越境大気汚染の割合が大きくなってきています。特に大陸に近い九州地方においては、越境大気汚染は重要な大気汚染問題となっており、人の健康に

影響を与える物質が含まれていることが懸念されています。

このような状況を踏まえ、本企画は、環境化学会大気環境部会と大気環境学会九州支部の合同企画として講演会を開催いたします。

講演会では、近年精力的に研究を進められている若手研究者の方々にご講演いただきます。まず、越境気塊に含まれる汚染物質の生体影響に関する最新の研究成果をご紹介いただき、続いて、越境してくる汚染物質の観測やモデルシミュレーションによる評価・予測に関する研究についてご紹介いただきます。

これらの研究は、越境大気汚染の影響と実態を正確に把握し、東アジア全体での対策の方向性を見極めるうえで極めて重要です。本講演会が、今後の大気環境保全に向けた議論の一助となれば幸いです。

日時：2026年6月23日(火) 13:00~14:30

会場：出島メッセ長崎(長崎県長崎市尾上町4-1)

E会場(会議室103)

座長：池盛 文数(長崎大学)、星 純也(東京都環境科学研究所)

プログラム:

1. 大気汚染物質の生体影響推定・評価：マイクロプラスチックを中心に
友永 泰介(産業医科大学)
2. 数値モデルと立体観測による越境大気汚染の実態解明
板橋 秀一(九州大学)

企画世話人:

大河内 博(早稲田大学)、加藤 みか(東京都環境科学研究所)、宮崎 康平(福岡県保健環境研究所)、関口 和彦(埼玉大学)、米持 真一(埼玉県環境科学国際センター)、池盛 文数(長崎大学)、星 純也(東京都環境科学研究所)

参加登録等の詳細につきましては、第5回環境化学物質合同大会のウェブページ(<https://j-ec.smartcore.jp/M022/forum/touron34/top>)をご参考ください。皆様ぜひご参加ください。

分科会・研究会だより

各分科会・研究会のホームページもご覧ください。
学会ホームページ (<https://www.jsae-net.org/>) にリンクがあります。

モビリティ環境分科会

モビリティ環境分科会講演会のお知らせ

テーマ: カーボンニュートラル燃料と大気環境
日 時: 2026年6月23日(火) 13:30~17:00
会 場: 東京電機大学千住キャンパス、もしくはオンライン
参加費用: 無料
参加登録: <https://forms.gle/xGSZKVHfqv1U67gq7>
登録〆切: 2026年6月15日(月) 17時
お問合せ: wada@ntu.ac.jp (帝京科学大学 和田 龍一)

【趣旨・内容】

現在、モビリティおよび燃料の変化が急速に進んでおり、今後大気環境に大きな変化が起こることが予想されます。本講演会では、近年注目を集めているカーボンニュートラル燃料の自動車や航空機への適用の現状、およびこれら燃料・潤滑油を使用した際に与える大気環境への影響について、ご講演頂きます。その後学生から発表をおこないます。モビリティの変化に伴う大気環境への影響を考える場となり、参加する皆様の研究等に有益な機会となることを願っています。

【プログラム】

- ①カーボンニュートラル燃料の動向と大気環境に関わる課題
岡山 紳一郎 (株式会社モトリティ)
- ②カーボンニュートラルにむけた自動車用燃料による大気環境への影響評価
内田 里沙 (日本自動車研究所)
- ③航空機排出粒子の環境影響と潤滑油・燃料の関与
伏見 暁洋 (国立環境研究所)

学生発表 (3件)

【世話人】

和田 龍一 (帝京科学大学: 代表幹事)、戸野倉 賢一 (東京大学: 座長)、山田 裕之 (東京電機大学: 座長)、秦 寛夫 (産業技術総合研究所)、内田 里沙 (日本自動車研究所)

委員会だより

編集委員会

研究論文の投稿のお願い

本誌への研究論文（原著論文、ノート、速報、技術調査報告）の投稿をお待ちしています。投稿された研究論文は、査読委員と編集委員会による審査を経て、採用されればJ-STAGE上で公開されます。研究成果を広く知ってもらえる貴重な機会ですので、積極的な投稿をお願いします。詳細は投稿規程と投稿の手引きをご覧ください。

「研究室・企業紹介」の原稿募集のお知らせ

本誌では、会員の相互理解を深めるため、「研究室・企業紹介」のコーナーで、会員機関の研究室紹介を行っています。このコーナーの原稿を募集しますので、日頃の研究取り組みを情報発信したい会員の方、ぜひご投稿よろしくお願いします。

投稿を希望される方は、大気環境学会誌編集事務局（jsae-edit@je.bunken.co.jp）までご連絡ください。担当より執筆要領等の詳細をご案内いたします。

会員へのお知らせの掲載について

学会活動以外の行事開催案内や研究資金公募など、会員に有益であると思われる情報を、テキスト形式でメールマガジンに掲載します。掲載料は1ページ10,000円（非会員は20,000円）とします。希望者は原稿を大気環境学会誌編集事務局（jsae-edit@je.bunken.co.jp）にお送りください。編集委員会で掲載の可否を決定します。

J-STAGE への大気環境学会年会講演要旨集の掲載について

J-STAGE への大気環境学会年会講演要旨集の掲載を始めました。今後、過去の年会の講演要旨集の掲載を進めていきます。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/taikiabst/-char/ja>

論文賞選考委員会

論文賞の選考対象について

論文賞選考委員会では、1年間に大気環境学会誌と Asian Journal of Atmospheric Environment (AJAE) に掲載された論文の中から、論文賞を選考しています。大気環境学会誌については、全ての研究論文（原著論文、ノート、速報、技術調査報告）を選考の対象とします。また、AJAEについては、投稿時に大気環境学会の会員を責任著者（Corresponding Author）とする Research Article を選考の対象とします。選考対象論文の投稿をぜひよろしくお願いします。

 関 連 学 協 会 だ よ り **第32回レーザーダ国際会議 (32nd International Laser Radar Conference)**

日程: 2026年7月5日~10日

場所: 広島国際会議場 (広島県広島市)

URL: <https://smartconf.jp/content/ilrc32/>**第36回環境工学総合シンポジウム2026**

日程: 2026年7月29日~31日

場所: 工学院大学 (東京都新宿区)

URL: <https://www.jsme.or.jp/env/symp/sympo-info2026/index.shtml>**第43回エアロゾル科学・技術研究討論会**

日程: 2026年8月26日~28日

場所: 金沢大学角間キャンパス (石川県金沢市)

URL: <https://sites.google.com/view/jaast43ku/>**第10回国際窒素会議 (N2026)**

日程: 2026年11月2日~6日

場所: 国立京都国際会館 (京都府京都市)

URL: <https://n2026.org/>**第29回風工学シンポジウム**

日程: 2026年12月2日~4日

場所: 横浜国立大学 (神奈川県横浜市)

URL: <https://kazekosympo.com/29/#home>

賛助会員一覧（五十音順）

株式会社秋田県分析化学センター

川崎市環境局環境総合研究所

株式会社環境管理センター

紀本電子工業株式会社

柴田科学株式会社

株式会社数理計画

一般財団法人大気環境総合センター

東亜ディケーケー株式会社

東京ダイレック株式会社

東京都環境局環境改善部

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本環境衛生センター

東日本高速道路株式会社

富士電機株式会社 パワエレシステム インダストリー事業本部

「大気環境学会誌」編集委員

編集委員長	茶谷 聡	国立環境研究所		
副編集委員長	板野 泰之	大阪市立環境科学研究センター		
編集委員	井上 和也	産業技術総合研究所	澤田 寛子	農研機構
	猪股 弥生	金沢大学	鶴丸 央	東京都環境科学研究所
	浦西 克維	北九州市立大学	豊永 悟史	熊本県保健環境科学研究所
	奥村 智憲	大阪府立環境農林水産総合研究所	原 由香里	九州大学
	小野 浩己	電力中央研究所	樋口 能士	立命館大学
	柏倉 桐子	日本自動車研究所	藤井 佑介	大阪公立大学
	木戸 瑞佳	富山県環境科学センター	藪下 彰啓	愛知工科大学
	工藤 慎治	滋賀県立大学	山口 真弘	長崎大学
	熊谷 貴美代	群馬県衛生環境研究所	吉野 彩子	国立環境研究所
	栗林 正俊	長野県環境保全研究所	渡辺 幸一	富山県立大学
	坂本 陽介	国立環境研究所	和田 龍一	帝京科学大学
	定永 靖宗	大阪公立大学		

複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物を複写したい方は、著作権者から複写権の委託をうけている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619